

## 土から始まるキャリア教育



▶ 地域の伝統を担う御田植祭の様子



うつつい小中学校は、令和6年4月から小学生と中学生と一緒に学び合う「小規模特認校」になりました。うつついで学びたい、育ててみたい、という思いを基に、子どもたち、保護者、そして地域のみんなで一緒に育っていくことを目指しています。内日地区はお米の産地という特色があり、子どもたちは地域の御田植祭への参加、田植え、観察、稲刈り、学校校舎ではお米のファンも増え、楽しみにしているお客さまの存在が、子どもたちのエネルギーにもなっています。子どもたちと一緒に地域がもっと元気になるべく予感がしています。

Shimonoseki

# 学校だより

school news

第02号

うつつい  
小中学校



市立学校の特色ある取り組み、子どもたちの生き生きとした姿、地域とのつながりを紹介します。学校から、まちなぎの元氣・未来をお届けします。

## 「縁」でつながる学校と地域

地域学校協働活動推進委員  
河村 敏彦さん



うつつい小中学校では、ランドデザインの中に協働活動として「うつつい科」があります。「うなずく」「つながる」「いきる」のうつついの文字を使ったテーマに分けて、学び場づくり、交流・達成感づくり、安心・安全・健康づくりを学校と地域と一緒に考えています。「縁」で結ばれた子ども・保護者・学校・地域が共に体験や思い出づくりを通して、表現力や自己肯定感を育てていければと考えています。「こんなことをしてみたい」が、子どもから、学校から、地域から声が自然に出てくる環境づくりに取り組んでいます。

## 連携が新たな価値を生み出す

塩屋 賢子 校長



米作りでは、田植えから収穫、販売までを子どもたちが主体的に担っています。作業の過程で、地域の方々に講師にお迎えし、「はぜかけ米」などの昔ながらの農法から、ドローンを活用したスマート農業まで、時代に応じたさまざまな工夫を体験的に学んでいます。地域の農家や事業者の方々とは次々と連携することにより、子どもたちは、自分たちが育てた米が商品として社会につながっていくことを実感することができています。人・地域・学びが循環する中で、新たな学びの価値が生み出されています。



### うつつい小中学校データ

所在地 大字内日下1031

児童生徒数 51人

学級数 8学級

#### 目指す児童像

「郷土を愛し、仲間を信じ、自分を磨く」

小中一貫の小規模特認校として、一人ひとりの可能性を大きく伸ばす地域密着型の学校です。



## つながることで、広がる学び

地域主体の「放課後子ども教室スマイル」が本校の図書館で毎週活動されている他に、いちご狩り、タケノコ掘り等、地域の特色を生かした子どもの体験プログラムが開催され、多くの子どもたちが参加しています。また、地域にお住まいのPCやプログラミングに精通している方が作られたのが、「うつつい小中学校プログラミング部」です。小学2年生から9年生まで参加している完全地域主体の部活動で、子どもたちは楽しみながらプログラミングを学んでいます。「初めてプログラミングをしたけど、いろんな色や音があつてとても楽しかったです」(小学6年生)

※小規模特認校…少人数による学習で特色ある教育活動を推進する小規模校に、一定の条件のもと、通学区域外から通学することを認める学校